

2 地区複合再編案意見一覧

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
中央地区	第一小学校	①2036 年時点で、全ての学校で、再編しないよりは規模が大きくなり、クラス替えや運動会などの大きな行事ではプラスになると思われる。 ②小学校は丁度いい児童数 ④適正規模が確保できている。	②中学校の生徒数は多いと思う ④将来推計以上に人口減少が進んだ場合、規模の適正化で不安要素が残る。 ⑤青梅大祭、市民運動会をともに行ってきた日向和田を西部に変更することへの反発も予想される。 ⑤規模は適正だが、数を合わせただけの印象がある。 ⑥通学時間が1時間を超えるのはどうかと思う。分校とかがあっても良いのではないか。		①基本的に同じ小学校から全員同じ中学校に進学できるためより安心感があり、同時に別の小学校からも合流するため新鮮味もあり、少し世界も広がる。 ④中央地区としては、再編案 A と比較して小中学校を統合して1校としているため、コスト面でメリットがある。 ④西部地区と中央地区を統合するのであれば、現実的な再編案 ④1小は青梅駅至近という特性があり、青梅線沿線については西部の遠方の児童も受け入れ可能となる汎用性がある ⑤適正だと思う	①御岳山や二俣尾 5 丁目から通学する児童生徒がいる場合、小学校も中学校もかなり遠いので、交通手段の選択肢を増やすか、朝の開始時間や冬季の帰宅時間に工夫が必要だと思う。 ②中央地区中学校、西部地区小学校共に遠距離のため通学が負担になると思う ④中学生は 4 小位置に統合されるため、特に西部地区のバス路線地域の生徒は乗り換えが必要になるなど通学の負担が大きい ⑥小学校も中学校も通学時間に問題があると思う。スクールバスがあっても厳しいのではないかと思う。	③石神駅まで乗り、好文橋を渡れば西中のある場所はそんなに遠くない気もする。	①施設一体型よりも節目で区切りをつけやすい。新鮮な気持ちで中学校生活に臨める。 ①子供も保護者も人間関係をリセットしやすい。 ③小中学生の一貫教育ですが、こちらの考えも良いと思います。 ⑤一小は芝生のため、休み時間に遊びやすかったり、サッカーしやすかったりするが、可能な競技に限られるため（体育館も 2 つあり、中学校は部活に使用していても、小学校は地域で利用することができる）、地域に 2 種類のグラウンドができる。 ⑤学ぶ環境が変わることで、その後の環境変化に備えられる。		④義務教育学校ではなく施設一体型の小中一貫教育のメリットは大きくないと考えます。教育効果として一貫教育を目指すのであれば、一部の理系国立大学で大学院まで 6 年間一貫教育が進んでいるように、1 人の校長の元で先生も前期課程高学年から後期課程まで一貫通貫の教育が可能となる義務教育学校を目指すべきです。 よって、単なる小中一貫教育なのであれば「施設一体型」のメリットは小さく、「施設分離型」はデメリットにならないと考えます。
	第四小学校	③34 年後の中央地区中学校の生徒数 446 人学級数 15 は安定している。 ④生徒数、学級数は問題なし	③第一小学校区は 34 年後児童数 232 人で不安定さも抱える。		④小学校のバランスは良い	③根ヶ布 2 丁目地区の児童に負担がかかる。また、御岳山・二俣尾 5 丁目の児童・生徒には、あまりに負担が大きすぎる。 ④中学校の通学は流石に無理か？ この考えなら西部と中央に小中一貫校の方が良い			③小中一貫教育の推進で、中学校は再編して1つだが、小学校は 3 つである。施設分離型小中一貫教育だが、現実には施設一体型小中一貫教育校としての望ましい推進は難しい。	④この案だと小中一貫教育と言うよりただ学校を少なくするだけだと思う。 前問でも書いたが西区と中央に小中一体型一貫校が良い。
	吹上小学校	①小中学校は、1 学年の学級数、学校全体の学級数のどちらについても学校活動を実施する上で適正であると考える。 ③1 小学校区、吹上小学校区、西部地区小学校、中央地区中学校、いずれも望ましい学校規模を維持できる点		②西部地区小学校として、現西中を使う考えのようだが、御岳山から通学している子のことを考えると、できるだけ駅近がよいと考える。日向和田駅北の採石場跡地などに学校をつくるということも一案かも。	②吉野・三田地区に学校を残すことはよいことであると考える。	①西部地区から中央地区への通学は、通学時間が長時間に及ぶことから、児童、生徒にとって心身に与える負担増は大きい。さらに山間部に住居がある者の負担増は深刻であり、脆弱な公共交通機関を利用せざるを得ない状況もデメリットとして捉えられる。 ③御岳山、二俣尾 5 丁目地区から西部地区小学校、中央地区中学校への通学距離が長くなる点			③施設分離型小中一貫校となることとなり、めざす児童・生徒像を共有しにくい点	①小中一貫校に関しては、義務教育を通じて一貫した教育活動を実践することができることが大きなメリットである。小学校の 6 年間と中学校の 3 年間で分け隔てることなく継続した中での学習指導計画の立案や児童、生徒の人間関係をより豊かに醸成することが期待できる。また、中一ギャップを防ぐうえでも効果的である。小中一貫校による教育の効果をより発揮することができるのは、中央地区再編案 A、2 地区複合案の「施設分離型」よりも中央地区再編案 B、3 地区複合案 B の「施設一体型」であると考える。
	第一中学校	①各小学校区から中学に進学した時の人数バランス的には適当（どこかの学区が極端に多いと勢力図に影響） ④小・中共に学級数は適正である			①一中校舎の有効活用が出来れば、新たな機会創出が期待できる	①二俣尾、御岳の児童通学負担 ④御岳山、二俣尾地区の小学校・中学校とも負担が大きすぎる。特に小学生は不可能に近い。 ※スクールバスの導入があれば可能 ⑤通学時間が長すぎる、安全性に疑問、もう少し西側に小学校を作れないのか。		①中学生になって、他の地区の生徒たちと1か所の校舎で学ぶスタイルは有りだと思います。 ④施設分離型で、個人的には一番安心な案だと思う。 ④小学生（特に低学年）は安心して校庭で遊ぶことができる。 ⑤中学校は1つだが、小学校が 3 つありことで、ゆったりとした生活が送れると思う。	④中一ギャップの解消にはならない。 ⑤小学校が 3 つあるので、学力のバラつきがあるのではないか。	

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
	吹上中学校	②小中学校とも、再編成で適正規模になったので、これでよいと思います。 ③吹上中としては、再編後の中央地区中学校が、生徒数 446 人・15 学級で安定している <u>⑤吹上小学校③と同様の意見</u>			③吹上中としては、現第四小の場所に中央地区施設一体型小中一貫の設置は、中央地区のほぼ中間にあり望ましい。	①通学を考えるとデメリットばかりな気がする。 親の送迎が増えそう。 ②西中に通学していた生徒にとって中学生でも通学は大変になると考えられます。 ③通学に関して御岳山・二俣尾 5 丁目の生徒の配慮が必要。 ④小、中学生、共に通学するには区域が広過ぎる <u>⑤吹上小学校③と同様の意見</u>			③分離型は以前までの教育環境と同じなので、方向性を考えるのが難しい	①施設の面を考えると一体型の方がいいと思う ②小・中一貫教育の趣旨から、施設一体型が望ましいと考えます。 小中一貫校開校前に、一貫校についての説明を指導し、小中教員同士が、十分に話し合うことが大切であり、必要と考えます。 現在も小中連携を行っています が、「その延長上に一貫校が有る」との理解ではないことを、教職員に認識させることが必要と考えます。

		学校の規模			学校の配置・通学		小中一貫教育			
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
西部 地区	第五 小学 校	②小学校の児童数からすると Ⅰ番いい ③児童数では西部地区再編案 Aより多く評価できる ④特に音楽/体育/図工(美術) /道徳等でチームや学習他者 との共同作業、直接触れ合い 会話することが重要な教科に 効果が得られる(国が提示す る児童生徒数の適正規模値を 一定の条件下で期待できる) ⑦一定の人数が集まること、 クラス替えができること、集 団活動を通し子ども同士での 育ちあい、異年齢児のかかわ りを期待。	②地域の文化の違いすぎる ④平溝地区：小学児童の通学 時間70分は徒歩66分+公 共交通期間4分であり、小学 児童の通学は困難かつ危険。 中学生徒の通学時間80分は 徒歩60分+公共交通機関2 0分で登校時間に間に合うた めには7:34 軍畑発に乗車と なる。そのため6時過ぎには 家を出発する必要がある、冬 季は暗い中を1時間歩くこと になり困難かつ危険。 ④御岳地区：小学児童はケー ブル始発に乗車しても登校時 間ギリギリか間に合わない。 降雪等で交通支障の発生が 多々ある。中学生徒は登校時 間に間に合うためには7:04 にケーブル乗車が必要になる が、始発7:30 であり通学不 可能。			②御岳地区の人は通学に時間がかかりすぎ、低学 年の生徒に負担がかかりすぎる ③二俣尾から中学校の通学時間が長い ⑤デメリット最寄りのバス停が上郷のバス停な ので非常に危険。道幅も狭いため歩道橋は設置で きない。現在の五小と市民センターを一緒に敷地 にして体育館やプールも一緒にすれば、コストも 抑えられる。また、災害時に現状のままだと車で 避難してきた場合、ごった返しになり混乱が生じ る恐れがある。施設を統合することで、駐車場も 広くでき、避難場所も広くなるので、五小側に新 校舎を建てた方がいい ⑥通学負担は西部地区再編案 A 以上にかかるた め問題外としたい ⑦通学時間が長く負担が大きい。部活、放課後、 友達・家族の時間が少なくなる。公共交通機関も 維持できるのか。通学路の整備等の安全制性の確 保、スクールバス運行を考えてほしい。		③グラウンドが十分使える等施 設面でいいと思う ④施設分離型小中一貫校の位 置づけとしての再編指針の違 成はできるが距離的に遠く効 果に疑問 ⑤一貫施設の方が交友関係が 生まれいいと思う。別々にす るよりコストも抑えられる ⑦学校ごとの独自性が持てる	④小学校卒業というゴールか ら中学校入学という新たなス タート目標を持つ刺激が少な くなる可能性がある。成長過 程の中で常に繰り返されるス タート/ゴールサイクルの中 でも大きな節目である機会の 喪失につながる。	
	第六 小学 校	③「2059 年まで望ましい規模 を維持できる」とあるが、人 口減が加速する場合は小学校 において各学年2クラスの維 持が難しくなる。 ⑧小学校：2040 年・20 人で1 8 学級、2053 年・28 人で1 8 学級、2059 年・24 人で12 学級→2053 年から1 学級の 人数が8人増えるが、東京都 の規程以下なので、少人数ク ラスなので児童一人ひとりに 目が届きやすいと思われる。 中学校：2037 年・26 人で18 学級、2058 年・25 人で18 学 級、2059 年・30 人で15 学級 →人数に変化がないため、少 人数クラスなので、生徒一人 ひとりに目が届きやすいと思 われる。	②小学校での在籍数は200 人 台となっているものの、中学 校では450 人に迫る規模とな るため、ゆとりある環境で育 ってきた子ども達への精神的 負担や不安が懸念される。	④適正かどうかわからない		①吉野・三田地区、特に御岳山から遠すぎます ①全地区通学時間がかかりすぎ、子どもの負担が 多いと思う ①1 年生(6 才)には遠いです ①広すぎる ②特に御岳山地区および成木地区の子ども達へ、 現状を超える負担を強いるべきではない。 再編＝学校の削減である以上、現状よりも何かし らの負担増が生じることはやむを得ないと認識 しているものの、あくまでも「義務教育」課程に 基づき通学していることを鑑みても、行政として 最大限の配慮をぜひともお願いしたい。 ③第六小学校区(特に御岳山)の子どもたちは通 学時間が長くなる。 ④御岳山に住んでいる人が不便である。小学校低 学年は自分で通えない。通学時間が長く、遊びや 人間関係構築の時間が保証されないことが心配。 送迎する保護者が出てくるので負担が大きくな り、仕事に影響が出るのではないか。さらに少子 化が進み、人口減が予想される。 ④学区域が広域すぎるため、地域性が失われるこ とが予想される ⑤学区に対して立地距離が不均衡なので、学生輸 送手段(運行頻度)の強化が必須。 ⑧長距離通学となり、児童・生徒の負担増が懸念 される。特に御岳山と二俣尾5 丁目の低学年の通 学時間が70 分から80 分であり、その上、冬場 には日没時間が早くなるのでなお負担が大きくな ると思われる。	⑤学内行事に伴う保護者参加 の場合、来校の際に車を使わ ざるを得ない。駐車場の是非 も含めて検討が必要。	②施設分離型では、正直など ころメリットを見出せない。 ⑤地域交流や学習の観点到に立 った時に対象が広い為、どこ の地域に主軸をおくのか。ま たは学年によって分散する か。 ⑧3 校舎建設のため、一体型 よりも費用がかかるとわれ る。 ⑧2053 年に小学校で6 学級 減少するので、空教室が出て します。活用方法を	③小中一貫校として機能する のか疑問が残る。 ③四校で連携して一貫校とし ての取り組みが必要である。	
	西中 学校	③学級数は満たしている。 ④2059 年度時点で、小学 校12 学級、中学校15 学級 で、適正規模となっている。 ⑤児童数は少なくなるが、五 小地区の児童と一緒になるこ と。生徒は人数が増え、理想 の学級数。 ⑥適正だと思う ⑦妥当である。	①日向和田地区は青梅住吉神 社で青梅市街地区との交流が ある、学校だけの分離は受け 入れられないかも ④現在の第5 小学校の青梅側 と第6 小学校の御岳側の児 童・生徒の通学時間が(10 分ほど)長くなる。 ④JR では、動物との接触等 で遅延することがある(ケー		④梅郷及び三田地区の中学を 合併してできたのが西中学校 であるため、西中学校の位置 に西部地区小学校を設置する のは、適切であると考え る。 ⑤児童は、現在とさほど変更 なく登下校ができると考え る。 ⑦この地域に学校が残るのは ありがたい。	②小学校については西部地区は西部地区再編案 Aと同じであるが、中学校までの距離が遠くな る。特に中学生については青梅駅より東に位置す る学校への通学となるため、青梅駅での乗り換 え、奥多摩行きへの接続のための待ち時間などの ストレスがあると考える。 ②望ましい学校規模と配置」に示されている通学 所要時間を満たしていない地域もあり、西部地区 再編案 A と比べて御岳山及び二俣尾5 丁目から の中学校までの所要通学時間は80 分と、基準よ り3 割ほど多く時間がかかってしまう。 ③西部地区小学校区域から中央地区中学校へ通	①西中を小中一貫校にして学 区はオープンにする	④中学校では、山間部や市街 地からの様々な生活環境から 生徒が集まるため、個性豊か な生徒等の出会いがあり、多 様性を育てることが出来る。 ④施設分離型であり、小学校 6 年生は最上学年となるた め、小学校6 年生はリーダー シップを形成できる。 ④野球、サッカー等の人数を	②西部地区再編案 A の理由か ら、小学校3 校と中学校1 校 の計3 校とする施設分離型に ついては、小中一貫校のメリ ットが生かしきれないと考え る。 ③施設分離小中一貫校となる ④中学校に進学する場合、3 つの小学校が統合されること から、中1クライシスを発生	③すべての案でもメリット・ デメリットはあると思う。子 どもの未来を一番に考えて話 し合って欲しいです。

		学校の規模			学校の配置・通学			小中一貫教育		
		メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他	メリット	デメリット	その他
			ブルの終電に間に合わない と迎えに来てもらう必要が ある。 ④雪等で計画運休すること がある（ただし、頻度はそう 多くないと思われる）。 ⑤児童数が少なく、学級数 が少ない、どうしても交友 関係なども固定化してしまう。 生徒数は理想だが、四小の敷 地に中央地区中学校の規模の 学校が建設できるのか疑問で ある。 ⑦西部地区小学校を新たに設 置するのであれば、なぜ西中 を入れないのか。			うにはかなり負担となる。 ④梅郷及び三田地区から第4小 小学校まで生徒が通学するの は、遠すぎて負担が大きい。 ④J R 青梅線が青梅駅で系統 分離されているため、御岳方 面のJ R 青梅線を利用する生 徒は、青梅駅での乗換えが必 要で、時間のロスがある。 ④J R 青梅線は、動物との接 触等で遅延することがある （御岳山の児童 ④生徒は、遅延によりケーブ ルの終電に間に合わないとい 迎えに来てもらう必要がある ）。 ④J R 青梅線は、雪・台風等 で計画運休することがある。 ⑤生徒は登下校に問題がある 。登校時の立川行は青梅で乗 り換えが大変であり、下校時 の青梅駅から奥多摩行は30 分に1本で少ない。また、東 青梅駅から四小までの道路幅 が狭く通学路としてとても危 険である。 ⑥中央地区中学では、長時間 になりすぎる ⑦西中が中央地区中学校に編 成された場合、生徒の通学時 間が長い。また御岳地区から は、青梅線を利用するため1 時間の本数が少ない。スкуль バス等を考える必要がある。 5・6小はメリットがあるが 、西中はデメリットが多い。		要するクラブ活動等の集団活 動や運動会等の行事を制限な くできる。 ⑤中学校は一小、吹上、西部 の小学校から集まるので、交 友関係など視野が広がる。 ⑥分離型では小中一貫とは言 えない ⑦分離型よりは、一体型の方が 、中間ギャップ・学力向上・ 人間関係の構築等良い効果が ある。	する可能性がある。 ④小学校と中学校の情報共有 に工夫が必要である。 ④施設一体型でないため、学 校行事の負担が軽減できな い。⑤コミュニケーション能 力がないと、孤立してしまう 可能性がある。	